

“皮たくれ”の正体を明かす

-樹木観察の面白さ(3)-

川名興先生

小・中学校の教育現場で身近な生物の観察方法を考え、広めてきた。

動植物の民俗学的側面にも興味を持つ。

観察会では、実践的な観察方法や、気さくで飾らない話し振りに定評がある。

本書では撮影と人との関わりに関する部分を担当。

川名先生は若いころから行動力の塊のような人です。疑問に思ったこと、気になることがあると、もうじっとしていられません。すぐに自分の眼で観察しなければおさまらないのです。『樹木博士入門』のために、雨の降らない日はほとんど毎日、カメラを携えて歩き回ってくださったようです。おかげで、開花などベスト・タイミングの写真を多数ご提供いただきました。

このレポートで掲載した写真と図はすべて自然観察大学とその関係者(禁無断転載)

● “皮たくれ”の正体

私は長年、植物や動物の方言を調べることをテーマとしてきました。

その中で、タマアジサイの方言名に“皮たくれ”“皮むくれ”というのがあることに注目していました。『樹木博士入門』の取材をする中で、実際に観察したいと考えたのです。

さっそく近所のタマアジサイで確認できました。

みごとに樹皮がはがれています。

編集会議でこの写真を提示したのですが、“剥け方がすごすぎる”という理由で、残念ながら写真選定で落とされてしまいました。

ちょっとくやしかったですね。



2017年12月9日 千葉県富津市で観察

タマアジサイの項の仕上がりの紙面は次です。

つぼみのときに花序が総苞に包まれて玉の形なのでタマアジサイという名前があります。

<p>タマアジサイ アジサイ科 <i>Platycodon involucrata</i> var. <i>involucrata</i></p>		<p>落葉低木。葉はやや大形で両面に硬い毛がある。縁に細かしの葉歯(7月東京)</p>
		
<p>樹皮は薄く大きくはがれる。「皮たくれ」や「皮むくれ」という方言名があるのは、この状態に由来すると思われる(4月長野)</p>	<p>開花前に花序が総苞に包まれ球形に見える。タマアジサイはそれをついた名(8月長野)</p>	<p>花期7~9月。装飾花は青紫色を帯びた白色、がく片は4個ほど。両性花は青紫色(8月長野)</p>

『樹木博士入門』p145 アジサイのなかまより

花の時期はみなさんご存知と思いますが、茎の“皮たくれ”に注目している方はあまりいないのではないのでしょうか。

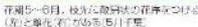
機会があったらみなさんもぜひ観察してみてください。

● アブラギリの葉の腺体

もう一つ紹介しましょう。

アブラギリは種子から採油され利用されたために比較的良好に見られる木です。

葉がキリの葉に似ているというのでアブラギリですが、トウダイグサ科の木です。

<p>アブラギリ トウダイグサ科 <i>Himelata comata</i></p>		<p>落葉高木、高さ15mに達することもある(6月千葉)</p>
<p>温暖な地方の平地や丘陵地に生育する。古くから植栽され、種子から採油してインクの原料に、樹皮は染料や皮なめしに利用された。二次的に増えているので自生かどうかの判断はむずかしい。中国原産の近縁種シニアブラギリもよく模倣され、野生化したものも見られる。</p>		
<p>樹皮は灰褐色で、縦にしわがある</p>	<p>花期5~6月、枝先に散房状の花序をつける。背側門は卵形に雄花(左)と雌花(右)がある(5月千葉)</p>	<p>葉は互生。普通5~7割、葉身の縁部に9枚もの腺体がある(6月千葉)</p>
		<p>果実は漿果。粒に鞘があり種子は9個(9月千葉)</p>

『樹木博士入門』p209 キリの名のつく木より



2016年9月26日 千葉県鋸南町



2019年6月13日 千葉県鋸南町

左は2016年に撮った葉です。よい写真が撮れているので、アブラギリの葉はこれでよし、と私は考えていました。

ところが、紙面の編集が進む中で、葉のつけ根に腺体(蜜腺)があるので、そこをはっきり出したい、ぜひ撮りなおしてくれ、といわれてしまいました。

じつはこのアブラギリは斜面に立っていて、葉を引き寄せたり、近づいてアップを撮るのはむずかしい状況でした。

このときは、家内に同行してもらって、現場で手をつかんでもらい、斜面に乗り出すようにしてやっと撮ることができました。それが右の2019年の写真です。

家内は、この本の隠れた協力者の一人というわけです。

.....
川名先生の奥さま、ありがとうございました。じつは後日談があります。アブラギリの腺体の撮影で苦労した話を八田先生にお伝えしたところ、「そうかね。それはたいへんじゃったね。しかし、よく奥さんに突き放されなかったものだ。」と大笑いになりました。なお、川名先生ご夫妻はとても仲良く、お二人で支え合ってお過ごしです。念のため。